

## 司書のキャリアを考えるワークショップの実践

長岡 絵里佳 (Erika NAGAOKA)

### 【背景と目的】

Society 5.0 時代に向けて情報拠点である図書館の役割はより一層重要となり、そこで働く図書館職員の専門性が問われてくる。しかし近年、指定管理者制度の導入や非正規雇用の増加などにより、継続してキャリアを重ねることが難しい状況が生じている。公立図書館や学校図書館、大学図書館など各図書館で求められる専門性を高めようと働きながら自己研鑽を続けても、非正規雇用のため雇用期間満了となったり、正規雇用の場合でも図書館とは全く別の部署へ異動となったりするため、単純に司書の勤務経験を積み重ねることはできないことがある。また、非正規雇用の求人に人手が集まらなかったときは、複数の学校図書館を担当したり、司書以外の業務を兼務したりすることがあるため、司書としての仕事に深く集中できないことも多い。非正規の職員だけで運営しているような場合や、正規職員よりも非正規職員のほうが勤務経験が長い場合などは、知識や技術の継承が難しいという問題もある。さらに、正規雇用の場合は、ジェネラリストとしての知識や姿勢が求められたり、管理職への昇進が求められたりするため、司書の限られた業務だけを追求するわけにはいかないことがある。

こうした中で、現役の司書はもちろん、司書をめざす学生にとっても、司書の専門性をどのように育み、どのような将来像や目標を描くことができるのかを考えることが難しくなっている。そこで、司書として働くことについてのイメージを明確にし、就職後のキャリアについて考える機会として、学生だけでなく転職を検討している卒業生や司書職に関心のある人、現役の司書などを対象とした司書のキャリアについて考えるワークショップを企画する。このワークショップは二部構成とし、まず司書経験が豊富な方や図書館や本に関わる経験が豊かな方を話題提供者として招き、どのような人生を歩んできたのかなど、これまでを振り返り語っていただく。その後、グループにわかれ、ホワイトボードシートを使いながらこれからの生き方やキャリアの方向性について一緒に考え意見交換を行う。最後に、簡単な振り返りシートを活用し、参加者がワークショップの活動を通じて気づきや発見が得られるように企図した。

こうした問題意識から、令和元年度「とっとりプラットフォーム5+α共同研究事業活動推進助成金」を受け、司書のキャリアを考えるワークショップを令和2年2月22日（土）に鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館にて開催した。本学で教鞭をとられた経験をもつ2名を話題提供者として招き、現役の司書や学生、図書館の仕事に興味をもち転職を検討していた卒業生、他大学の司書課程担当教員など、途中参加・退席も含めて15名の参加であった。参加者のアンケートをみると、「興味深いワークショップだった」「皆さんのキャリアのお話を聞くことができて参考になった」「自分を見直すきっかけになった」という声が多かった。図書館の正職員が少なくなっていることや司書の地位の低さへの悩みや不安の声も共有できる有意義な会となった。令和元年度は上記のワークショップのほかにも2回の開催も予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかった。そこで、地域研究・活動推進事業の助成金を受け、上記の取り組みの反省や気づきをふまえてワークショップを開催し、その成果と課題を検証したい。

○共同研究者・協力者

鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館

## 【活動（研究）の概要】

### 1. ワークショップの実施

令和元年度に実施したワークショップをふまえ、管理職経験者を話題提供者として招き図書館と管理職をテーマにしたものと、学校図書館での勤務経験者を話題提供者として招きワークライフバランスをテーマにしたものの計2回を企画している。新型コロナウイルス感染症の影響で実施時期が延期となり、3月に実施予定である。

#### 1) 第1回ワークショップ

- ①テーマ 司書と管理職
- ②第1部話題提供 図書館長経験者1名
- ③第2部グループワーク 司書のスキルアップやキャリアパス、昇進についての意見交換

#### 2) 第2回ワークショップ

- ①テーマ 司書とワークライフバランス
- ②第1部話題提供 小学校学校司書1名  
元小学校講師（図書館担当）1名
- ③第2部グループワーク 働き方の工夫、仕事と家庭の両立などについての意見交換

### 2. オンライン開催の検討

ワークショップでは、話題提供者の話を身近に感じ、参加者同士が率直に意見交換を行うことによって気づきや発見を得ることを重視するため、対面での実施を念頭に準備を進めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響からオンライン開催について検討する必要性が生じた。ブレイクアウトルームや共同編集ツールなどを用いたグループワークの可能性や、Web アンケートを用いたワークショップの振り返りの実施を検討中である。

## 【課 題】

学生のキャリア支援に携わると、司書になりたいという学生の多くは就職や就職後のキャリアのイメージが明確でないことに気づかされる。令和元年度に実施したワークショップ参加者からも「司書のキャリアについて考える機会が少ない」という声があがったように、現役の司書でさえキャリアのイメージはつかみにくいようだ。また、卒業生からも司書のキャリア支援を求める声が挙がっている<sup>1)</sup>。今回のワークショップの実践を通して、司書のキャリア教育を考えていきたい。

### 《注・参考文献》

1) 長岡絵里佳、吉田恵、河崎和穂、中島久美子、中谷昇（2021）「鳥取短期大学司書課程修了生の意識調査」『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』第82号、pp. 49-62。